

特集 めぐる つながる ノエル

2~3面 それでもクリスマスはやってくる
活水高等学校・活水中学校 宗教主任 三河悠希子

4~6面 YWCA×エシカル

7面 パレスチナの平和のために

The Young Women's
Christian Association

YWCA

12

DECEMBER
2023

No.777

www.ywca.or.jp

〈第33総会期主題聖句〉
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉
女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切に社会

〈ミッション〉
若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉
キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース

地には 平和が ありますように

Glory to God in the highest
and peace on earth

憎しみのあるところに愛を。

争いのあるところにゆるしを。

絶望のあるところに希望を。

闇に光を。

イラスト/小谷野晃

それでも クリスマスはやってくる

活水高等学校 活水中学校 宗教主任 三河悠希子

自分の事として 考えてみると

「空爆の下で逃げまどう子どもたちを見ると、あの子は原爆の時の私だと思うのです」

イスラエルとパレスチナのニュースを見た被爆者の方の言葉です。泣きながら逃げまどう子ども。子どもを抱いて逃げる母親。被爆当時6歳だったその女性は、戦闘の報道を見るとあの時の自分のように遠い国の出来事だとは思えない、とおっしゃいました。ご自身の体験と重ねて、子どもたちの悲しみを自分の悲しみとして受け止めているようでした。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

(マタイによる福音書一章23節)

「いやいや困るでしょ。普通に。困るでしょ。ってかどうするの?」

大学のキリスト教学の授業で、イエス様の降誕の次第を知った学生の言葉です。

時代背景が異なるとはいえ、イエス様の母マリアは今の中高生の年齢であり、婚約中に「聖霊により身ごもった」わけです。まだ準備のできていない若い女性の予期せぬ妊娠。その学生は「自分の身に起こったら」と想像力を働かせて、大学はどうするのか、経済的に両親に頼れるのか、怒られるけど両親に言えるだろうか、相手はそれでも結婚してくれるのかと次々と具体的な問題を挙げていきました。

「ヨセフってさ、このとき何歳? あの意味すごいよね。俺40代後半だけど、受け入れられないと思うよ」

マリアが聖霊によって身ごもったので受け入れるように、と天使が婚約者のヨセフに言う聖書箇所についての牧師の説教を聞いた時の、私の夫の感想です。ヨセフも大変です。天使に「恐れず妻マリアを迎え入れなさい」などと言われても、自分の子ではない子どもを育てていく困難さ、自分自身の将来への不安、世間の目もある、どうしたらいいのだろうかという状態でしょう。

「初めての子を産み、布にくるんで飼

い葉桶に寝かせたって聖書はさらっと書いてるけど、冗談じゃないよね」

第一子が生まれた後、クリスマスに向けて、礼拝メッセージの準備をしていた時の私の感想です。コロナ禍での出産であつても、私が安心できたのは、助産師さんやお医者さん、病院の方々がいてくれたからです。マリアのように家畜小屋で、夫ヨセフ、それも出産立ち合い経験ゼロのあてにならない手助けだけで出産なんて、考えたくもありません。それに、生まれた赤ちゃんを飼い葉桶に寝かせるのも嫌です。少なくともマリアにとつては、自分のお腹の中で大切に育ててきた赤ちゃんです。その大切な赤ちゃんを、きつとどこから引つ張り出してきたであろう布に包んで、飼い葉桶に寝かせるのです。清潔な布や暖かい寝る場所を準備してあげたかつたはずは、

誰かが、この瞬間に 直面している問題

クリスマスは問題だらけです。まだ婚約中の若い女性が、聖霊とはいえ、パートナーではない相手との間に妊娠する。宿屋には泊まる場所がなく、家畜小

屋で出産。それ以外にも、羊飼いは屋外で深夜労働。ユダヤはローマ帝国という大国に支配され翻弄され、為政者であるヘロデは自分自身の利益しか考えていない。

でも、この問題だらけの状況は、私たちの生きる現代も同じなのです。準備のできていない予期せぬ妊娠、困難を抱えての出産、その後待ち受ける困難な状況での育児、そして厳しい労働環境やそれでもやめることのできないさまざまな事情。為政者の不正。今を生きるみなさんにも、私にも起こる可能性のある問題であり、すでに起こっているかもしれない問題、そして、私たちのすぐそばの誰かがまさに今直面している問題なのです。だからこそ、クリスマスは、ずっと昔、遠いどこかの国で起こった、みなさんには、そして私には関係のない出来事ではないのです。確かに、2000年以上前に、ベツレヘムという日本からは遠い場所での出来事です。でも、その登場人物は、みなさんであり、私、そして、私たちのすぐそばにいる人たちと同じなのです。クリスマスは、現代と同じ問題だらけの世界の出来事です。

こんな世界に 一方的に救いがきた

ニュースに映る空爆の中で逃げまどう子どもだって、遠い国で起こった、私たちに関係のない問題ではありません。私たちの生きるこの同じ時代に、誰かの大切な子どもが危険にさらされ、誰かのパートナーが戦わなくてはいけない状況に置かれているのです。時代が違えば、場所が違えば、状況が異なれば、逃げているのはみなさんや私かもしれず、みなさんや私の子どもやパートナーかもしれないのです。

しかし、それでもクリスマスはやってきます。この世界が平和でみんなでお祝いをする準備ができてからクリスマスがくるのではないのです。私たちの準備に関わらず、一方的な恵みとして、クリスマスはやってきます。問題が解決していなくても、問題だらけの世界に、みなさんのところに、私のところに、そして空爆の下にいる人々に、救い主がやってきたのです。準備ができていない若い夫婦の間に、準備ができていない家畜小屋にイエス様がお生まれになったように、

準備ができていない私たちの所に救い主が、神様ご自身がやってきてくださったのです。

悲しみも、悩みも、 一緒に背負って

クリスマスのあの日、神様の大切な独り子イエス様は家畜小屋に生まれました。それは、私たちを愛しておられるからこそ、準備のできていない問題だらけの私たちの所に神様が直接行って、その悲しみも、苦労も問題も、一緒に背負ってくださるためです。

だから、もし今、困難の中で悩んでいるならば、神様があなたと一緒におられるすべての問題を一緒に背負ってください。ためにこの世界にきてくださった、それがクリスマスなのだと知ってください。困難の中にいる人のために何かしたいと思うならば、神様が一方的な恵みとしてこの世界にイエス様を遣わしてくださったように、神様が大きな恵みを与えてくださることを信じ、神様が共に生きるように与えてくださった目の前にいる隣人のために、どんな小さな事でもしてみてください。それがクリスマスです。

エコカル みんなにやさしい!



京都
YWCA

ものを大切に、人ともをつないでいく

高度経済成長が終焉を迎えた1975年、京都YWCAのスリフトセルの歩みが始まりました。当時はまだ「他人が着たもの」に抵抗を持たれる時代でしたが、「不要になったものを処分せずに、必要とする人につなげる」ことの意義や魅力を体現し続け、京都YWCAが誇る活動になりました。

スリフトを語る上で欠かせないのが、会員のロイス・カーフさん。草創期から活動を支え、「ものを大切に使う」というスリフトの精神を言葉と行いで示した人です。「本当に必要ななら大切に使いまわす。大切に使用は、使えなくなつたときにも次のニーズが生まれるのです」というロイスさんから多くの会員が薫陶を受けました。「出会い」と「つながり」もまた京都YWCAのスリフトの真骨頂。ここでの出会いから会員になった人、人に会うために買いに来る人、掘り出し物を見つけた人……無数の絆が紡がれました。長く続けるためには、変化も必要です。京都YWCAは常に時代に即した支援事業を展開しているため、いつしか会館は手狭になり、会場を確保することが困難に。ロビーで常設の展示販売を行つたりもしましたが、コロナ禍の



2019年、スリフトセルとしての幕を閉じました。しかし、その精神は途絶えていません。昨年からは1度「プチマルシェ」を開催し、スリフトが復活。エコカルに取り組む他団体や店舗も出展するなど、新たなつながりもできました。これからも柔軟に変化しながら、100年先まで続けていきたい。

名古屋
YWCA

不要とされた服に新たな息吹を

いつも人々の往来が絶えない名古屋YWCAのロビー。その一角で、オンシーズンのリサイクル衣料を販売しています。ハンガーラック2本ほどですが、会員のほかにプログラムの参加者や訪問客からもひそかに注目されているようで、毎月1度の入れ替えのあとは特によく売れています。

バザーとは別に、2011年から、不要になった衣料品を回収・販売しています。回収箱に納められた古着を仕分けするのは、リサイクル衣料部のメンバー。ほつれ、汚れないかと丁寧に確認し、自信をもって販売できる商品をハンガーにかけます。販売するのは「スーパキッチン」に委ねています。どうしても売り物にならないものは「アップサイクル部」にお任せ。「クリイティブ・リユース」とも言われるアップサイクルによって、古着が思いもよらない「何か」に生まれ変わります。ブックフェスで大人気だったブックカバーも元は古着。ネクタイは女性用のネックレスになり、今も販売中です。



昨年の「まるつとオープンデー」では、リサイクル衣料のファッションショーを開催しました。これまでに購入した服を着た常連客が、音楽にあわせてランウェイをウオーク。それぞれのセンスや遊び心が光るコーディネートが披露して会場を沸かせました。こうして不要とされた服が生き生きとよみがえるのを見ると、やりがいを感じずにはいられません。





「倫理的な」を意味する「エシカル」。近年では、人・地域・社会・自然環境に配慮した考え方や行動を現わす言葉として周知されています。YWCAでも取り組んでいますが、とりわけ「出会い」や「つながり」を大切にしているところがポイントです。

YWCA >

つながりを紡ぎ、

呉
YWCA

ロス食品を募り、必要としている人へ

呉YWCA会館に、今年の春、食品を保管する倉庫（パントリー）ができました。冷凍食品、野菜、乾物、お菓子……ここにあるのは、企業や家庭で「余りもの」「販売できないもの」とされ廃棄処分されるはずだったものです。ただラベルの印字がズレた、賞味期限が近い、形がそろわず規格外となったというだけで、問題なく食べられます。そんな不要とされた食品を募り、この倉庫で保管し、支援を必要とする人に無料で提供する「ミニマニティ・パントリー」を稼働して半年になります。今のところ利用者も、地域の保護施設や支援団体、そして市役所が仲介する個人です。今後は、市役所につがっていない人にも届けたいと考えています。

地域のメーカーや問屋から寄付された大量の食品を前にすると、これまで目に見えないところで「フード・ロス（食品廃棄）」がたくさんあったことに気が付かれます。パントリーの取り組みは、困っている人を支援するだけでなく、ロスを減らすことで持続可能な循環型社会づくりにも期待できそうです。



先日、ある農家の方が立派な野菜を献品してくださいました。その方は「生懸命に育てた野菜なのに、規格外だから処分するのはおかしい。ムダにしたくなかった」と言いました。生産者の思いや苦勞を無にしないこともパントリーの魅力だと思います。まだ始まったばかりですが、「ねばならない」は禁物。無理をしないで、ゆる〜く、長くやっています。

函館
YWCA

バザーよりも持続可能なスリフトショップ

「インターネットで、函館 古着」と検索して、この店を知ったんです」と言って来店したのは、道北からやってきたカッパル。古着が趣味で、函館旅行のついでに店を探してここに辿り着いたそうです。2人は買い手のなかったトレンチコートを手に取り、喜んで買っていました。このように函館YWCAのスリフトショップには、YWCAを知らない人がふらりと訪れることが少なくありません。

母親の誕生日プレゼントにアクセサリを購入した女子高生が、後日「お母さんがとても喜んでくれたから」と、今度は祖母の誕生日プレゼントを探しに来たことがあります。店内を吟味して花柄のティーポットを選んでいきました。ときに、売れるだろうか半信半疑になることもありますが、「不要なものはない」とお客様に教えられています。

最近、会館の和室を開放してリサイクル着物の展示販売を始めました。登録有形文化財の空間と着物の取り合わせは趣があります。布を裁断せずに仕立てる着物は、サイズを変えたり、反物に戻したりとリフォームしやすく、まさにエシカルな衣服です。函館では、着物姿で飲み歩くイベント「函館ハル街 きものdeバル」が人気で、若い世代にも需要があるようです。ぜひ広く見直されてほしいものです。



持続可能な循環型社会を目指す函館YWCAにとってスリフトショップは大切な事業。バザーよりも続けやすい常設販売は小さな取り組みですが、日々くり返すことで確実につながり、広がると信じています。

半農に生きる会員に聞いてみた エシカルな暮らしって、 どういうこと？

大阪YWCA会員
雀部 真理

土をいじりながら
考えてみました

編集部から「エシカルな暮らし」のお題をいただき、畑をしながら考えました。百姓は哲学者だと言ったのは宮沢賢治だったかしら？ 土や植物に触れる時間は、毒素にびったりなのです。私たちが人間は、酸素を吸って二酸化炭素(CO₂)を吐いています。私たちの存在そのものが地球温暖化の原因を作っているのでしょうか？……化石燃料を使い始める前、呼吸と多少の煮炊き程度のCO₂排出なら、緑の葉っぱが「光合成」で酸素に変えてくれたり、



有機菜園に取り組み20年。害虫を食べるナナホシテントウが増え、生態系が整いつつある

この20年ほど、町内5つの小学校の5年生に、こんな説明を含む出前授業をしています。仲間と6人チームで、寸劇・映像・クイズ・ゴミ分別ゲーム・オリジナル紙芝居などなど、バラエティー番組のような90分です。南太平洋キリバスの海岸べり(家の表も裏も海!)というような細長い島です)で生き

海が吸収してくれたりして、大気中の「温室効果ガス」の1つCO₂は適度な量にとどまっています。温室効果ガスがなければ、太陽からの熱は地表にとどまらず宇宙に跳ね返ってしまうので、これがないと生き物が暮らせる温度は保てない。だから温室効果ガスは悪者ではなくとても大切なだけけれど、人間が石炭や石油といった化石燃料を使い過ぎたために、これが増えすぎて、地球温暖化とそれに伴う気候変動を引き起こしているんです。

私の暮らしが誰かを
苦しめていないだろうか？



海面上昇に伴う危機に瀕するキリバス。ここにも家族の暮らしがあり、他のどことも違う独特の文化がある

る家族の写真も見せます。地球温暖化による海面上昇で、住む場所がなくなる瀬戸際にあることを説明した上で、その人たちの暮らしが実に簡素で、日本のような便利な暮らしではないことを指摘し、「私たちの快適な暮らしがこの人たちを苦しめていることを知ってどう思う？ 少しでも迷惑を減らしたいと思わない？」と、問いかけます。まさにエシカルな問いです。以前もこのYWCA誌上で、「気候変動/地球温暖化は、地域間・世代間・ジェンダー間の不正義の問題」「一部の人の過剰に豊かな生活が、他の人や未来の世代を苦しめるという不正義をただすことは、世界YWCAのビジョンに合致します」と訴えましたが、自分の暮らしが他者を苦しめていないか、黙っていることが誰かを搾取することになっていないかなど、常に自分に問う姿勢を持つことが、エシカルな生き方かな、と考えます。

少しでも世界がましになる
「何か」に取り組む

20代の頃、お気に入りのアイスクリームがイスラエル系資本で、パレスチナを支援したいなら不買を貫くべき、と聞いて悩んだのが、記憶に残る初めてのエシカルな葛藤です。

自分が生きていることで、ゴミも出せば石油も使い、確実に地球を汚している。それを自覚した上で、少しでも汚すことを減らし、少しでも土や緑を豊かにし、自分がいることで少しでも世界がましになる「何か」に取り組む。それがエシカルであり、SDGsにもつながる気がします。

出前授業の5年生は、「わが家のエコチェック」に取り組み、自分が家族のリーダーになって改善できることを3つ選び、家族にその決意を伝えることを宿題にします。一人では難しくても、家族や仲間宣言することで一歩踏み出せることがあるから。そして、子どもたちを通して家庭にメッセージを伝えたいからです。

私自身の暮らしで心がけていることは、モノを増やさないこと。うちの畑の野菜と卵でなるべく食卓を整え、買う場合もなるべく地元産を選ぶこと。食品残渣はニワトリのエサか堆肥に。資源ゴミの分別。他に何かあるかな。

知ることから、見えてくる パレスチナの 平和のために できること

日々刻々と深刻さを増す、イスラエルによるガザ地区への軍事攻撃。一連の報道だけを見ると、すべては10月7日ハマス等がイスラエルを攻撃したことが発端に見えるかもしれませんが。しかし、日本に住む私たちからパレスチナは遠く、報道からは知り得ない事実があります。複雑に絡み合った問題の根源を、すぐには理解できないかもしれませんが。しかし非道な仕方、人間の命と尊厳が奪われていること、それが今に始まったのではないこと。まずはそのことを知ってください。歴史をひもとき、事実を知ること、私たちにできることが見えるはずですよ。

人間の命と尊厳が奪われ続けている

パレスチナ自治区の一つ、ガザ地区。東京23区の6割ほどのエリアに、約220万人が暮らす人口密集地。イスラエルが建てた高い壁やフェンスに囲われ、封鎖された状況は、「絶滅収容所」に例える声すらあります。ここに住むパレスチナの人々の命と尊厳が、容赦のない攻撃で奪われ続けています。

国連人道問題調整事務所（OCHA）によれば、ガザ地区の死者は10月7日から今日まで1万1000人を超え、そのうち3/2が子ども・女性・高齢者。特に乳幼児を含む子どもの被害が深刻です。さらに、破壊された建物の下で1500人の子どもを含む2700人以上が行方不明。逃げ場のない状態で、電力・水・食物・燃料の補給も絶たれた。住居を失った150万人が国内避難民となり、ガザ北部から数万人が行くあてもなく、わずかな所持品を手に徒歩で避難しています。

また、国際社会がガザを注視する陰で、ヨルダン川西岸地区でも、48人の



1948年の「ナクバ」で故郷を追われた女性を象徴する人形。左はガザ地域特有の衣装。制作したパレスチナYWCAは、犠牲者の追悼のためロゴを黒色に変えた



子どもを含む191人のパレスチナ人が殺害され、数百の家族が住居を追われています。

半世紀以上にわたる 違法な支配と軍事占領

ガザ地区で1936年に生まれたパレスチナYWCA前会長のハイファ・バラムキさんは、「ガザではかつて、ユダヤ人とパレスチナ人が隣人として平和に暮らしていた」と言います。

しかし1948年、ユダヤ人の国家建設を目指すシオニストの軍事組織による破壊と占拠により、1万人以上のパレスチナ人が殺害され、70万人が土地を奪われた。その土地に建てられたのが、いわゆる「イスラエル」です。

先祖伝来の土地を追われたパレスチナ人の多くはガザ地区、そしてヨルダン川西岸地区に逃れることを余儀なくされました。このエリアは「パレスチナ自治区」と呼ばれていますが、1967年からイスラエルによる違法な軍事占領下に置かれ続けています。

2006年、パレスチナ議会の選挙に勝利したハマスが翌年にガザ実効支配を開始すると、イスラエルは同地区を完全封鎖。移動や経済の自由も、電気や水道の利用も制限された壁の中で、生活の手段や教育にアクセスができず、失業者、若者の自殺者が増加しました。2018年、過酷な生活を強いられ続けてきたガザの人々は、自由と故郷への帰還を求めて非暴力・非武装デモ「帰還の進行」を行いました。これにイスラエルは銃撃で応え、デモに参加した214人が死亡、3600人以上の市民が負傷しました。今年10月7日の出来

事は、突然に起こったことではないのです。

この事実を知り、声を上げ、 国際的圧力を強めよう

10月に世界YWCAが主催した会でパレスチナのメンバーが口々に訴えていたのは、「平等に国際法を適用してほしい」ということでした。ハマス等による民間人への攻撃が戦争犯罪であることは明白である一方、イスラエルが数十年にわたって行ってきた数々の国際法違反は責任を問われることなく放置され続けています。現在イスラエルが行っている行動は国際法が禁止する集団的懲罰であり民間人の虐殺です。少しでも多くの人がこの事実を知り、声を上げることで、この暴力を、そしてイスラエルによる占領そのものを止めさせる国際的圧力を強める必要があります。

日本YWCA国際担当職員 小笠原 純恵

●もっと知りたい!

「On Gaza.org」(英語)

<https://ongaza.org/>
パレスチナの若いアクティビストたちがガザの真実を発信。「イスラエル/パレスチナの背景は?」「イスラエルを支持する国があるのはなぜか?」「これは宗教戦争か?」など素朴な疑問にQ&A形式で答えている。

●賛同者募集!

「現在ガザ地区で起こっているジェノサイド(大量虐殺)を止める報道を!」

日本YWCAは10月22日、報道関係者に向けて要望書を発信。同時に賛同者を呼びかけ、11月15日現在1077の団体・個人が名前を連ねています。
<https://www.ywca.or.jp/news/advocacy/letter231022/>



2023年度クリスマス募金のお願い

日本YWCAは、日本全国・世界各地のYWCAとつながり、
弱い立場におかれがちな女性や子どもたちを支援し、
その声を社会に伝えるために活動しています。2023年のクリスマスを迎えるにあたり、
2つの活動へのご寄付を心よりお願い申し上げます。

オリーブの木キャンペーン募金 (1口3000円)

2023年10月以降、イスラエルの軍事攻撃により、パレスチナの人々は生活の悪化、生命の危機にさらされる日々を送っています。日本YWCAは、パレスチナの土地にオリーブの木を植える「オリーブの木キャンペーン」(パレスチナYWCAと東エルサレムYMCAの共同事業「JAI」が実施)を支援しています。オリーブの木はパレスチナの人々にとって生計の手段であり、貴重な栄養源。そして繁栄と幸福のシンボルです。オリーブの苗木を寄付することで、パレスチナの農家を支え、国際的な連帯の声を届けることができます。一口3000円で1本の苗木を植樹できます。寄付者には現地団体から証明書が発行され、植樹記念のプレートに名前が刻まれます。お名前の読み仮名をローマ字表記で必ずご記入ください。
※緊急支援募金として、パレスチナYWCA支援募金を募集しています。

ピースメーカーズ募金

日本YWCAは「平和を実現する人々は幸いである(新約聖書マタイ5章10節)」をテーマに、一人ひとりがピースメーカー(Peacemaker)として平和をつくりだす活動を展開しています。特に若い女性たちに、国内外でリーダーシップを身に付けて発揮する場と機会を提供することで、一人ひとりの若者がエンパワーされ、平和をつくりだす力を得ることを目指しています。ピースメーカーズ募金は「国連女性の地位委員会(CSW)」「ニューヨーク」、「日韓ユースカンファレンス」(韓国/日本)、「ひろしまを考える旅」(広島)などに用いられます。

お振込み先

郵便振替 00170-7-23723 *通信欄に「クリスマス募金(ピースメーカーズ)」「クリスマス募金(オリーブの木)」「パレスチナYWCA支援募金」のいずれかをお書きください。
加入者名 公益財団法人日本YWCA
銀行振込 三井住友銀行 飯田橋支店 普通 1198743
口座名義 公益財団法人日本YWCA *下記のアドレスに①募金の種類、②お名前、③ご住所をお知らせください。
office-japan@ywca.or.jp

インターネット 日本YWCA公式サイトから、クレジットカードを用いてご寄付いただけます。
<https://www.ywca.or.jp/getinvolved/donate/>



ご協力ありがとうございます

賛助費

- 五十嵐和子 梅林宏道
- 遠藤恵美子 河崎純子 河内常男
- 熊江雅子 小谷野淳子 斎藤喜子
- 坂上信子 汐崎康子 高木博己
- 高月三世子 谷川いつみ 谷川毅
- 辻加代 都木恵子 徳永明子
- 鳥海百合子 野村春江
- 福澤レベッカ 古川道子
- 帆足嘉代子 牧甫 毛利亮子
- 吉田瑠都 和田崇子

ピースメーカーズ募金

- (平和を創り出す女性のリーダーシップ養成)
- 熊江陽子 熊江雅子 小谷野淳子
- 斎藤喜子 谷川いつみ 谷川毅
- 辻加代 都木恵子 野村春江
- 古川道子 帆足嘉代子 細川敦子
- 毛利亮子 和田崇子
- 学校法人横浜英和学院
- 甲府YWCA

災害時支援募金

- (国内外の災害被災者支援)
- 石川玲子 笠嶋多希子 嘉屋陽子
- 熊江雅子 斎藤喜子 坂上信子
- 古川道子 細川敦子 宮崎せい子
- 森朋子 和田崇子
- 日本キリスト改革派東京恩賜教会 執事会

オリーブの木キャンペーン募金

- 宇都宮芳子 熊江雅子 小谷野淳子
- 斎藤喜子 坂和優 田中良明
- 帆足嘉代子

ウクライナ支援

- 細川敦子
- 一般財団法人函館YWCA
- 公益財団法人福岡YWCA

パレスチナYWCA支援

- 荒川彩美 栗野智子 嘉屋陽子
- 斎藤喜子 田中亜子 辻加代
- 都木恵子 平川幸子 古川道子
- 細川敦子 水谷栄太郎 毛利亮子
- 吉野恵子 和田崇子

トルマ/ミャンマー支援

- 田中亜子
- 福島YWCA
- 沖縄YWCA

東日本大震災被災者支援募金

- 嘉屋陽子 小谷野淳子 斎藤喜子
- ステファンヨハナス 斎藤喜子
- 徳永明子 古川道子 細川敦子
- 村上千代子 和田崇子

カーソポーターズ募金

- カーソポーターズ 54件

(2023年8月16日~10月15日) 敬称略